

# あぶらむ通信

準備号

飛驒便り

—— 創刊にあたり ——

寒里にやっと来たりし春なれど一雨降れば股引をはく

何と冴えない短歌でしょう、中年丸出しです。新緑につつまれた飛驒地ですが、雨の日は肌寒く、厳しかった冬が想い出されます。でも自然の恵を身体一杯に受け、家族一同元気に過ごしています。

申し遅れましたが、この「あぶらむ通信準備号」を手にする皆様にはお元気でお過ごしのことと思います。永の御無沙汰お赦しくくださいませ。

昨年3月、「あぶらむの会」創設の為、日本聖公会司祭職を休職とし、飛驒高山の技能専門校にて木工の訓練をうけた私でした。

当初、「あぶらむの会」の本拠地を房総半島の一角にと、漠然と考えていたのですが、飛驒地での一年間の生活を通して、この地の方が、土地取得や宿屋建設等、いろいろな面において現実性が高いと判断し、この地に腰をすえて活動を開始することに決心しました。

そして本年3月末、家族が引越してきました。東京生まれの東京育ちの女房、子供たち、永年住み慣れた地を後に見知らぬ土地に向けての旅立ちは、ちょっぴり不安に満ちていたようです。家財道具一式を積んだ2トン積トラックを先頭に新たな地に向けての出発は、私たちなりのアブラムの旅立ちでした。

5月13日、私たち夫婦は14回目の結婚記念日を迎えました。14年前、いや昨年でさえ、今日こうしてこの飛驒の地で生活することを誰が予測することができたでしょうか。

しかし、このようになるべき事の萌芽性は、結婚の時からあったように思います。

結婚記念日のその日、私は14年前の私たちの結婚案内状を、読み返してみました。私たちはこんなことを書いています。

「……その昔、イスラエルの父アブラハムは、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、私が示す地に行きなさい」という神の言葉を唯一の拠りどころとし、それに望みをおいて生き、私たちに信仰の力強い姿を示してくれました。ひ弱で未熟な私たち二人ではありますが、互いに手を取りあって生きる中、私たちも神のこの言葉によって今日を生かされていることを日々確認し、神の証し人として、その一途に生きぬきたく願っています。……」

結婚式の案内状にこのようなことを書くなんで、今からおもえば気はずかしい限りですが、私たちにとって嬉しいことは、結婚して今日まで私たちに、この最初のこぼれにこだわりながら、二人の人生を追い求めてきたということであり、

近くの野で採ってきた山菜をつつきながら、「最近の我家は信仰資本主義だネ (Faith Capitalism)」と笑いながら14回目の記念日を祝いました。

高校卒業後、ホテル学校—社会福祉学科—神学校—牧師と、これは私の歩んできた道ですが、各々がどのような必然性において連なっているのかはすぐに理解できません。私自身この連なりが自分のものとなるのに20年余の年月がかかりました。

昨年一年間の技能訓練校での生活は、私にとって良き黙想の機会でした。その中で私が発見したことは、この20年余私がこだわりの中に必死に追い求めていた事は、「与えられた大切な人生、己が人生旅路を真に旅すること」だったのです。それは自分自身が人生の良き旅人となること、また旅の途上で出会った人々と共に支え導き会う中で、互いに「旅する力」を育みあうことでありました。

私に生きることを教えてくれた沖縄のライ園の人々、筆舌に尽くせぬ人生の苦悩を生きる力に変えてきた彼らは、「人生は一片の安定を求めることではなく、いかなる状況の中にあっても常に淡々と生きることであり、『転んだら起き上がる』そんな道理を身につけて生き抜くこと」を身をもって語り教えてくれました。なんと立派な旅人でしょうか。そんな彼らの生きざまに触れた若者達が、どれほど自分の人生にたちむかっていった事でしょうか。

フィリピンやネパールなど、アジアで出会った人々も皆よき旅人でした。「転ばぬ先の杖」とばかり、ただ々安定を求めるあまり己が精神の自由を巨大なものに売り渡し、旅としての人生に臆病になった私たちとは異なり、アジアの人々は「転んだら起きる」という「旅する力」を身につけて力強く生きています。

出来事としての人生旅路のなかで、一度壁にぶちあたったら深く挫折してしまうような今日の精神状況、今日の日本の社会病理の一因は、そんな「旅する力」のなさにあるように思えてなりません。それ故に、人生のよき旅人を育てることが急務に思えてなりません。

私たちは「あぶらむの会」の働きとして、次のようなことを計画しています。

\*旅人育てとしての FIELD EDUCATION PROGRAM—— 生きた場からの学びとしての実践教育活動

・社会福祉施設に生きる人々との生活を通して

ハンセン病療養所、老人ホーム、身心障害者施設 他

・アジアの人々との生活を通して

フィリピン、ネパール 他

・自然との生活を通して—— その土地の人、自然、文化、歴史との触れあいを通して、また、集う者相互の人格的交わりを通して——

飛騨各地、沖縄、ヨット・プログラム 他

\*宿屋づくり—— 人生旅路の中で傷つき、疲れた人々が、新たな力を得て各々の持ち場に出て行くべき場としての宿屋

・人生旅路で疲れた人々へのサービス

・登校拒否児童等との共同生活

・各種講習会、研修会の開催

・高校、大学の課外活動の場としての施設提供

- \* 同じ人生旅路の中で苦悩しているアジアの人々への支援
  - ・ フィリピン、マウンテンプロビンス、サガダ村の孤児院への支援
  - ・ フィールドプログラムを通しての相互交流、相互理解

\* 我々の旅の舞台である地球環境問題との取組——— 生活環境の見直し、消費から創造へ

- ・ 食糧問題—— 有機農業、自然食品
- ・ 緑の問題
- ・ 創造の喜び—— 木工、染色、陶芸 他

\* 製造と販売——— 自活にむけて

- ・ 薫煙品（ハム、ベーコン）、木工品、染色品 他

「あぶらむの里」の候補地選定に早くて1年、遅ければ2～3年を覚悟していました。

しかし、飛驒発祥の地、国府町の絶大な御協力により、同町宇津江にある県立自然公園四十八滝の一角、約5000坪の土地をゆずっていただくことになりました。

「あぶらむの里」候補地「四十八滝」は、朝日新聞主催の「21世紀に残したい日本の自然百選」に選ばれた景勝地で、高山より18Km、国府町中心部より5Kmに位置し、同地区には自然溢れる滝の外、町営テニスコート6面、公認フィールドアスレチック、さらにナイター設備のある公式野球場などの社会施設が完備したところでした。また、近い将来、陸上競技場やスキー場も建設される予定です。

また、土地選定にあたり町としては、私たちの生活面も深く配慮して下さいました。特に冬の厳しさを考える時、宇津江地区であれば除雪車や子供たちのスクール・バスも走り、また、電気、水道なども完備しているとのことで同地が選ばれてきました。

私たちの計画を考える時、飛騨地においてはこれ以上の土地はないのではないかというのが私の素直な印象です。

そしてまた、行政側の理解と協力があるということは、私たちの計画を実現して行く上で大きな力であるといえます。

今後、この示された土地を、将来働きを共にする可能性のある人や後援者となって助けて下さる人、専門家の人などに直接見ていただき、私たちとしての最終決断を致したいと願っています。

多くの方々より「あぶらむの会」の将来や私たちの家族のことを心配していただいておりますこと、申し訳けなさと共に感謝で一杯です。

「あぶらむの会」の働きは、多くの方々のご支援、ご協力なくしては不可能と思います。今後、この「あぶらむ通信」を通して、私たちの近況や活動状況を皆様にお伝えさせていただきたく思っています。

「あぶらむの会」の組織がしっかりするまでの間、この通信を準備号とさせていただきます。私たち「あぶらむの会」の活動に、ご意見、ご質問がございましたら御一報下されば幸いです。

最後になりましたが、この通信発行にあたり、社会人として多用であるにもかかわらず、協力してくれている多くの仲間達に、心より感謝いたします。

皆様お一人お一人の上に、神の豊かな祝福がありまようお祈り致します。

1987年5月

あぶらむの会

代表 大郷 博

\*申し遅れましたが、新住所は下記のとおりです。  
 また近い将来、国府町字津江に転居となりますが、本拠地ができるまでの当分の間、高山にて生活致します。  
 高山の周囲には素敵な観光地が一杯です。どうぞいつでもおいで下さい。  
 「あぶらむの宿」すでに開業です。

住所

〒506 岐阜県高山市山田町1274-1

TEL 0577 (35) 1830

東京事務所

〒201 東京都狛江市西和泉2-5-407

TEL 0424 (84) 5215

